

第6学年「外国語」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

- 成果**
- 知識として外国語（英語）に精通している子供は多い。
 - 単語や文の仕組みなどを書くことには抵抗感が少ない。
- 課題**
- ▼ 実際に声に出して話してみることが苦手。
 - ▼ 教わることに期待が大きく、自分の力で調べる力が弱い。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 積極的に声に出し、自分なりの表現で考えを伝える力。
- ◇ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力。

具体的な改善策

- 挙手制だけでなく、場面に応じて意図的な指名を行い、できるだけ声に出して表現する場面を設定していく。
- うまく話せない児童には、担任やALTがそばについて助言をしながら、答えさせていく。
- 参考となる資料を明確に提示し、自分の力で取り組ませる場面を設定する。

達成目標

- 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、聞く、読む、話す、書くコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付ける。
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。